

# 図書講演会

## ヒソかな愉しみ

〜かくも広く深い詩の世界へようこそ〜  
「詩集って可愛いと思いませんか?♥」

by 浦井加寿子 先生

六月二十日の放課後、本校の国語科教諭である浦井先生をお迎えして、図書室において図書講演会が開かれました。「ヒソかな愉しみ〜かくも広く深い詩の世界へようこそ」と題して、実際に詩集を見せてくださったり、プリントを準備して下さったりして、様々な詩について紹介して下さいました。一時間という短い時間でしたが、浦井先生のユーモアとともに、国語の授業で詩について勉強するのはまた違った、楽しいひとときを過ごすことができました。

最初、誰もが知っている「みんなちがって、みんないい」でおなじみの、金子みすずさんの「私と小鳥と鈴と」などを例に、詩が私たちの生活の中に、意外に溶け込んでいることを教えてくださいました。

そして、「詩を楽しむ」ということで、さまざまな形態の詩を紹介して下さいました。なかでも、「る」がただひたすらに並んでいる草野心平さんの「春殖」という詩は、「る」という文字の形でカエルのたまごを表現しているようで、それにはとても驚きました。他にも新しい発見がたくさんありました。

浦井先生曰く、「どこかで変な詩を見つけ

たら、『あー』というように、笑って見てほしい」とのことです。とても充実した一時間でした。

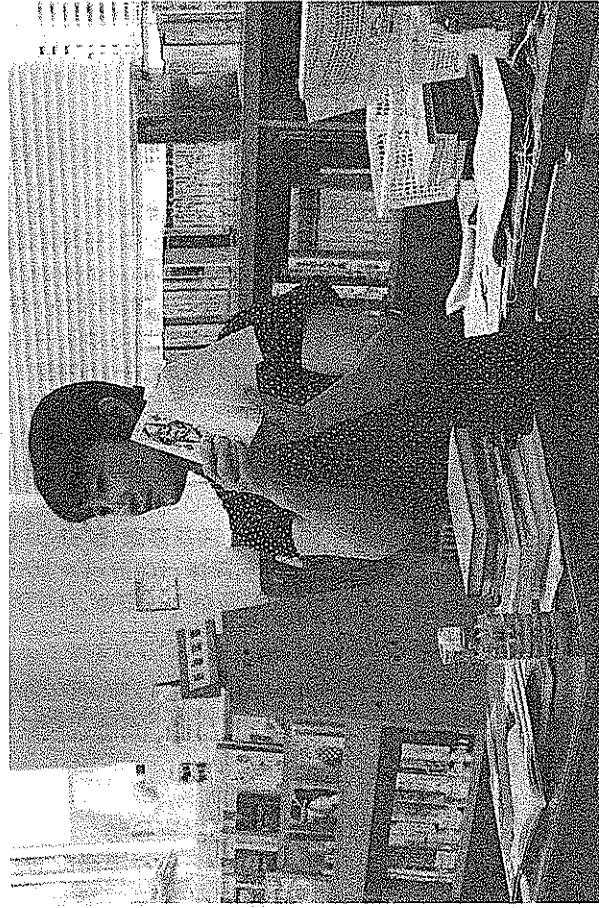
### 参加者の感想

● 昔聞いた詩、読んだ詩がたくさんあって、とても懐かしい気持ちになりました。好きだった教育テレビの小さなコーナーで聞いた詩(確かことはあそびの詩が多かったと思います)や、小学校の時に授業で読んだ詩もありました。私の行っていた小学校では、よく教科書以外の詩を読んだり、校舎のいろいろなところにいるいろいろな詩が貼ってあったりしました。そう言えば、私、詩が好きだったんだなあと思い出して、この講演会に参加して本当によかったです。

それから、先生の声がとても好きだなと思いました。私の好きな詩の雰囲気と合っていてうれしかったです。

是非、先生おすすめめの詩をもっと聞いて、詩の授業を受けたいです。

(二年女子)



● 母が詩集を多く持っているので、僕も小さい頃から多くの詩に触れて過しました。今回、「のはらうた」や「カツパ」等、懐かしい詩に再会できて、真心に返った気分になりました。本当にありがとうございました。

(二年男子)

● 「春に」を見た瞬間、うれしくなりました。私の好きな詩人は谷川俊太郎さん、その中でも一番好きなのがこの「春に」です。私たちは詩よりも音楽を聴く方が身近です。でも、音楽の中にも「歌詞」という形で詩が隠れていると知って、新鮮な気持ちになりました。

(三年女子)

● 様々な詩に触れることができ、「感じる」ということの楽しさを知ることができました。貴重な経験になったと思います。ありがとうございました。

(二年女子)

● 「詩」と聞くとやはり難しいイメージでとっつきにくい感じたのが、今日読んだ詩は良いものばかりで楽しかった。知っている詩もあつたし、勇気づけられる詩もあつた。今日の詩の中で一番好きになったのは、「みちくさ」だ。自分でも元気が出る詩を見つけてみたいと思った。

(二年女子)

● 詩。自分はあまり好きじゃないです。漠然とし過ぎていて、答えがないからテストでも点数が取れないし。でも、今回の講演会で、面白いのもあるのだと分かりました。少しだけ興味も出てきたので、これから少しだけ読むようにしてみようと思いました。

(三年男子)

● 今回の詩の中で一番印象に残ったのは「みちくさ」だった。すごくゆつたりとした気持ちになり、最近せつからになりがちだったほくの心をおだやかにしてくれた。

(二年男子)

● 僕は今日の詩の中では「純銀もさいく」と「春殖」が印象に残りました。言葉で視覚的に語りかける、「春殖」においては表音文字であるはずのひらがなを字ではなく絵として見るという発想が素晴らしいと思います。

(二年男子)

● 詩は心に訴えかけるものだと思うけれど、視覚で楽しめるものもあり、意味があまりないものもあり、詩の敷居が少し低くなった気がしました。

(二年女子)

● 詩の楽しさを感じた。音楽と同じで詩でも心に響くことがあるのだなと思った。

(三年女子)

● 詩は普通の文章以上に読み手の感性が反映されるので、先生の読みを聞いて、自分との違いがとてもよく分かりました。そういった違いもまた楽しいです。

(三年女子)

● 楽しかったです。授業とは違う自分の速度で詩を楽しみたいと思いました。

(三年女子)



浦井先生のコレクション

● 普段、あまり詩を読むことはありませんが、授業で習った詩の中でお気に入りのものはいくつかありました。今日配られたプリントの中にも、そういう詩が入っていてうれしかったです。

浦井先生の講演を聞いて、詩はあまり気負わずに読めばいいのだなと気づきました。自分の気持ちにぴったり合うような詩を探すのは楽しそうだと思います。

(二年女子)

● 詩は字ばかりでつまらないものだと思うけれど、先生の話聞いて、詩は身近なところに形を変えて存在していること、文字の配列を変えたり、繰り返したり、なぞなぞ風に書いたりすることで、興味がわいてくる詩もたくさんあることを知りました。これからは積極的に詩に親しんでいこうと思いました。

(一年男子)

講演会後に反響が大きく、先生のところに「詩集を見せてほしい」と訪ねてきた生徒もいたそうです。ということで、浦井先生の貴重なコレクションが図書館に展示されています。先生のご厚意で、手に取って見られるようになっています。

この報告を読んで、「聞き逃して惜しかったな」と思っている人も、「たまには詩を読んでほしい」と思っている人も是非図書館に足を運んでみてください。